

自衛隊と「選挙」

自民党「集票マシン」の実力と内情

国防を担う自衛隊は別の顔を併せ持つ。それは日本最大級の「票田」としての機能で、現役自衛官だけで二十万人超にも上る。家族やOBを加えれば「潜在的には百万票は下らない」（自衛隊幹部）とも推計される。選挙では各業界団体や労働組合、宗教団体など集票マシンとして支持候補を支える集団はあまた存在するが、自衛隊はその底堅さにおいて最強組織の一角を占める。自衛隊にとつては、自民党の選挙を支えることにより、有形無形の見返りを期待できる表裏一体の関係だ。

航空自衛隊を経て政界へ転進した。いずれも防衛大学校卒業の元幹部自衛官の経歴をバックとして、参院全国区の比例代表で自衛隊票を基盤とする。OBのみならず、自民党の他の国会議員もしかり。「自衛隊の皆さんには、足を向けて寝られない」と関係経験者は打ち明ける。組織出身の候補ばかりか、衆参両院の選挙区でも、かれらの動向は政界地図を左右するほど死活にかかわるのだ。

駐屯地を有する全国でくまなく、頻繁に繰り広げられている。自衛隊の創設記念日である十一月一日、各部隊の創設記念日、賀詞交換会、夏祭り……。そのたびに地元選出の国会議員も首長らと共に来賓として出席する。その狙いが「来るべき選挙に向けた売り込み」であることは公然の秘密だ。

家族会やOB会もフル稼働

「〇×司令、ダブル選挙があるかもしれません。その節はなにとぞ、よろしくお願いいたします」

今春、東日本のある自治体で開かれた会合で、自民党の現職衆院議員は駐屯地の司令官の杯に酒を注ぎながら、こうべを垂れた。この議員によれば「自衛隊票は当落を決する頼みの綱。隊員に家族や出入り業者を加えれば、一千票単位は確実に獲得できる」。

それゆえ、トラブルやめ事も少なくない。「なぜ私の挨拶の順番は、〇〇議員より後ろだったの

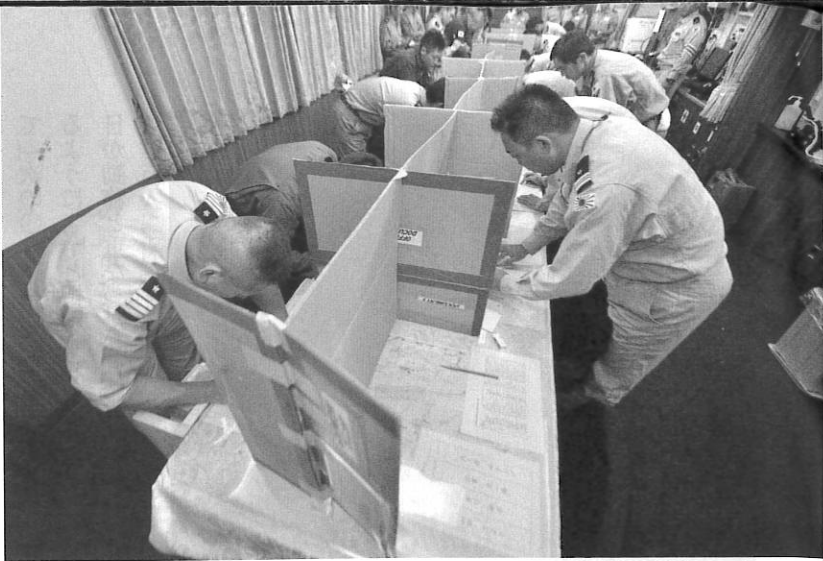
七月二十一日投票開票の参院選に挑む佐藤正久参院議員は陸上自衛隊出身で、自衛隊イラク派遣で「ひげの隊長」として名を売り、今や外務副大臣。宇都隆史参院議員は

は十八人。佐藤氏の得票数は三十二万六千五百四十一票に達し、これは全国郵便局長会会長の経歴で郵政票を一手に集めた柘植芳文氏（四十二万九千二票）、全国農業協同組合中央会の専務理事だった山田俊男氏が獲得した農林漁業者らの三十三万八千四百八十五票に次いで第三位の大量得票だった。

定の政策を主張し、又はこれに反対すること」などを政治的目的とみなし、これに基づく行為をすれば厳罰に処せられる。さりとて自衛隊員も国民であり、憲法に保障された思想信条の自由を脅かす権利は誰にもない。自衛隊を否定するような政党には、よほどの変人でもない限り、一票を投じることもない。

か！」「×議員の車の誘導が優先されて、俺は後回しにされたぞー」。しかも、クレームの大半は現地の基地や駐屯地ではなく、東京・市ヶ谷の防衛省内局に寄せられるケースが多い。その理由を与党議員の一人は「直接、文句を付けると、現場の部隊に反感を抱かれかねないから」と明かした。

全国比例区では、現職の自衛官にも増して強い結束力を誇る自衛官OB中心の公益社団法人「隊友会」が策動する。約七万人を擁する団体で、家族も含めれば数倍に膨れ上がるマシンだ。このほかにも若い自衛官の父母を中心とする自衛隊家族会、借行社（陸自）、水交会（海自）、つばさ会（空自）という元幹部自衛官主体のOB会が「組織内候補」が立つ戦いでフル稼働する。陸自OBは「候補者の名前と経歴、主張が記載された名



防衛省本部 和室 撮影

刺大のピラが大量に自宅へ送られてきて、知人や友人に配るよう指示されるのは恒例行事」と話す。

出身母体の縦割りが二人の票差に表れている。はつきり言えば、自衛隊票の柱は陸自である。このために、過大と言われ続けた陸自定員の削減に自民党は切り込めないのだ。

では、自衛隊サイドは政治的中立を装いながら、参院選の全国比例区であれ、衆院の小選挙区であれ、いかにして自民党を支援してきたのか。自衛官OBに聞くと「講話と草むしり、かな……」と苦笑した。

「選挙」への向き合い方も各幕僚監部から指導される。最大のポイントは「ともかく隊員を選挙に行かせること」。そして

まず、基地や駐屯地へ司令官として赴任する前に、地域との良好な関係構築やメディア対応などさまざまな分野の心得と所作について教育を受ける。その一環として

自衛隊法は一般の国家公務員に準拠し、自衛隊員の「政治的行為

の制限」を規定。同法施行令は「政治の方向に影響を与える意図で特

比較して投票を呼び掛けた。真部氏は訓戒処分を受けたが、現職の幹部自衛官は「どこでも同じよう

「組織内候補」が立つ戦いでフル稼働する。陸自OBは「候補者の名前と経歴、主張が記載された名

半自動的に自民党候補に一票を投じる「仕組み」（防衛艦内での不在者投票・上と隊友会ホームページ）

防衛省・自衛隊 MINISTRY OF DEFENSE

借行社 公益社団法人 自衛隊家族会

防衛省共済組合 公益財団法人 水交会

安全保障と防衛力に関する懇談会

防衛省 防衛技術情報発信 一般財団法人 防衛技術協会 DEFENSE TECHNOLOGY FOUNDATION

安全確保 つばさ会 ホームページ

防衛省 防衛技術情報発信 一般財団法人 防衛技術協会 DEFENSE TECHNOLOGY FOUNDATION

チャンネル Nippon 特定非営利活動法人 平和と安全ネットワーク

衆議院議員 中谷 元 顧問 中谷 元

衆議院議員 佐藤 正久 相談役 佐藤 正久

衆議院議員 元自衛官 中谷 真一 相談役 中谷 真一

衆議院議員 宇都 隆史 相談役 宇都 隆史

「特定の候補を応援しないこと」。

しかし、前者は顔面通りだが、後者は建前論にすぎない。なぜかと言えば、自衛隊を認めて支持してくれる政党、つまり自民党に入れるのは「暗黙の了解」だからだ。従って、隊員に投票にさえてもらえれば、自動的に自民党候補の票が増えることになる。

そのために、選挙の一カ月ほど前から司令官は部隊の幹部を通じて「次の〇〇選挙に全員を行かせようように」と指示する。投票票日が勤務と重なったり、旅行など



OB、現役を問わず自衛隊員のもとへかけつける自民党議員 (自民党議員のホームページ、SNSより)

で選挙区外へ出たりする隊員も完全に把握して「しっかりと期日前投票を済ませるべし」と諭す。さらには、選挙翌日には全員に投票したかどうかを確認する――。

前述した真部氏の一件以来「指揮官の判断で、ここまで徹底しない部隊もある」というが、投票が自衛隊にとって重要な行事と位置付けられているのは変わらない。

前述の「草むしり」は、自民党候補が駐屯地の正門前で街頭演説する時に多用される「工作」だ。勤務中の自衛官を動員して、演説

をまともに聴かせれば「政治的な行為」に抵触してしまう。そこで「草むしり」を口実として、正門付近で大挙して草をむしらせながら演説に耳を傾けさせる。この行為を知る元自衛官は「政治的行為と批判されないための苦肉の策。それが『抜け道』として繰り返されるようになった」と述懐する。

自衛隊の駐屯地は少なくとも百

「自衛隊協力会」という緩衝材

それにしても、なぜ自衛隊はこ

こまで自民党を支援するのか。自衛隊の処遇を維持・改善してくれる「応援団」という一般論のほか、強固な結びつきには訳がある。それは自民党の政治家と自衛隊、双方の緩衝材としての自衛隊協力会の「トライアングル」に起因する。

協力会とは基地や駐屯地を抱える自治体にある任意団体で、各地域のさまざまな企業や個人事業主らで組織する。名前こそ「協力」だが、建設業や納品業者、保険代理店など自衛隊と何らかの取引のある会社が多く、その本質は商売上の付き合いである。しかも、こうした会社経営者は、ほぼ自民党

人単位、大規模な基地では四千人近くを擁する。その隊員は「営内居住」、つまり職住一致が原則。自衛隊票に期待する候補者から見れば、不特定多数で選挙権もあるかどうか分からない人たちにターミナル駅などで呼びかけるよりも「自衛隊は目の前に束で票があるのだから、はるかに効率的」(自民党衆院議員)というわけだ。

支持者と重なり合う。

自衛隊と協力会の会社は「ギブアンドテイク」と陸自関係者は言い切る。企業から見れば、自衛隊は大切なお客さま。かたや自衛隊にとっては地域との良好な関係を保つたり、自衛官の再就職先となったりする不可欠な相手である。

基地や駐屯地で必要な物品は自衛隊で需品と呼ばれる。このうち、自衛官の食糧となる生鮮食品や事務用品などの消耗品は大手の会社から大量に購入した方がコストは安い。だが、地元との付き合いを重視して「来週までにキャベツなど野菜を何百キロ」などと、あえて地元業者が納入できるように

条件をつけることも多かった」と九州方面の元司令官は振り返る。

自衛隊協力会の会社が「任期制で若くして退職する自衛官の再就職の面倒を見てくれるケースも少なくない」(前出関係者)。自衛隊援護協会という一般財団法人が再就職を斡旋しているが、地元出身者の職探しでは、地域に根ざした協力会も一定の役割を果たす。東海地方の駐屯地であった興味深い事例を紹介しよう。協力会の法人会員に名を連ねる大手保険会社支店の営業の中年女性はこれまで数百人に保険を契約させたやり手で、この駐屯地では事実上の「顔パス」である。彼女の切り札は、未婚の自衛官と保険会社の若いセールスレディーの合コンのセッティング。「嫁探し」に躍起な自衛官のツボを押さえた作戦で、営業成績を上げた。この女性によれば「ここで仕事をもらっているのだから、その自衛隊が支持する自民党に入れるのは当たり前。出入りの業者もみんなそうでしょ」。

政治家サイドも、自衛隊ばかりか、自らの支持者でもある協力会とは丁寧につき合う。さまざま

陳情や役所への働き掛けは日常茶飯事で、何も自衛隊に限った話ではない。近年で全国等しく特徴的なことは「自分の後援会の有力者で、協力会の法人会員でもある会社経営者からソウカエンなどのチケットを大量に求められることが多くなった」(自民党関係者)。ソウカエンとは毎年八月に静岡県御殿場市の東富士演習場で実施される富士総合火力演習のこと。他にも、神奈川県相模湾での自衛隊観艦式や日本武道館での自衛

首相の改憲発言が「選挙運動」

自衛隊にとって自民党支持は実利だけではない。隊員が最も喜び、時に胸を震わせるのは、意外にも無形の言の葉である。それは「憲法に自衛隊を明記」。安倍晋三首相が折に触れて力説するたび、自衛隊員たちの自尊心は満たされ、次の選挙での投票モチベーションに直結していく。とりわけ、かつて「税金泥棒」「人殺し」とまで陰口を叩かれ続けた苦難の時代を

「ようやく我々の時代が到来した」という思い。その心理をくすぐる

隊音楽まつりが人気で、自民党議員を中心に招待チケットが防衛省から各議員のもとへ届く。前出の関係者によると「うちの事務所は『無料チケットぴあ』さながらだよ」と自嘲する。それでも、自分を支持してくれる会社の頼みだから、無下にはできない。その会社は自衛隊を相手に商売をして、時には退職自衛官も受け入れる。かくして組み上がったものこそ、目に見えない「鉄のトライアングル」なのだ。

発言は「もっと言って」と喝采したいほど訴求力を持つ。

「全ての自衛隊員が誇りを持って任務を全うできる環境を整えるため、憲法に自衛隊と明記し、違憲論争に終止符を打つ。その責任を果たす決意だ」。首相は今年五月の改憲派の集會に寄せたビデオメッセージで、こう豪語した。これを受けた自衛官OBは「一般的な受け止めは『首相が改憲に意欲』だろうか、我々には格別な意味を持つ。この発言は自衛隊員の心をわしづかみにする選挙運動そのもの

の」と解説してみせた。

しかし六月に自民党が発表した参院選の公約は、改憲を六つの重点項目の末尾に置き「早期の憲法改正を目指す」との表記にとどまった。首相が明言した「二〇二〇年に新憲法施行」からは明らかにトーンダウン。いくら国会での議論が進んでいないとはいえ、本気で改憲を目指すなら、具体的な目標を堂々と掲げるのが筋だろう。さもなければ、政権の保身を目的に自衛隊員の歓心を買うための「やるやる詐欺」(野党幹部)と批判されても致し方あるまい。

安倍政権

が唱える改憲が選挙の方便に過ぎず、自衛隊員を失望させることになれば、底堅い支持基盤からも、やがてしつぱ返しを喰らうことになるだろう。



「自衛隊のための改憲」という殺し文句 (観閲式に臨む安倍晋三首相)